

泉チーム案 最優秀作品に

●プロジェクトの概要

徳島市東沖洲にある徳島新聞社所有の「旧印刷センター」は、北島町に印刷センター機能そのものは移転しており、同社から公益性の高い用途とすることを目的として徳島県に寄附されることとなりました。このため、徳島県は「awa臨港プロジェクト」として、この「旧印刷センター」を活用し、災害時における「広域物資輸送拠点」として人口集中地域である徳島県東部における防災機能の増強を図りつつ、平時から県民の生活向上と地方創生に貢献する施設として「新しい生活様式」に対応したモデルケースとなるような、リノベーションに関する大胆な提案を募集することとなりました。

このコンペは、先に実施された「awaもくよんプロジ

ェクト」から、応募資格がさらに工夫され、県内事務所がより参加しやすい条件となりました。このコンペでも、二次審査に残った5作品の内3作品が、本会会員の参加する共同事業体となりました。受付順に、010(株)松村建築計画研究所、012タニアトリエ、034(株)泉設計室で、5作品による二次審査・公開プレゼンテーションの結果、最優秀賞に泉さん、入賞に谷青年委員長、入選に松村会長の企業体を選出されました。皆様おめでとうございます。

今回当選案となりました泉さんに12月27日(月)、泉さんの事務所でお話を伺いました。

(写真・資料提供：徳島県)

○敷地の条件

- 用途地域： 工業地域
- 建坪率／容積率 60％／200％
- 防火地域等 指定なし
- 周辺施設 徳島東 IC (約500m)
※2021年開通予定
フェリーターミナル (約1,000m)
※東京・北九州航路

○既存建築物の条件

- 階数 地上3階・地下1階
- 延べ面積 8,720.41㎡
- 構造 鉄骨鉄筋コンクリート
- 竣工 平成10年

●審査結果

- 最優秀作品 034 共同企業体 (ジオグラフィック・デザイン・ラボ・(株)泉設計室・(株)構造計画研究所)
おきのすインドアパーク 全ての世代が徳島に住み続けたい、魅力的な余白
- 優秀作品 003 共同企業体 (株)御手洗龍建築設計事務所・(株)かたちとことばデザイン舎)
もくちくの森 - 地域の循環を促すプラットフォームのかたち -
- 入賞作品 012 共同企業体 (ムトカ建築事務所・タニアトリエ)
サステナブル・ラーニング・ハウス 楽しみながら持続可能な世界を考える場所
- 入選作品 010 共同企業体 (ビーツーエアーキテクト(株)・(株)松村建築計画研究所)
沖洲の未来工場
- 016 共同企業体 (川畑智宏建築設計事務所・M-STYLE 設計室・川村設備研究所)
TOKUSHIMA HEALTHCARE SQUARE - 健康×スポーツで創る徳島の未来 -

●審査委員会

- 委員長 馬場 正尊 (株)Open A 代表
- 副委員長 田口 太郎 徳島大学大学院准教授
- 西澤 徹夫 西澤徹夫建築事務所代表
- 真田 純子 東京工業大学准教授
- 吉村 昇 一般社団法人徳島新聞社専務理事
- 徳島県危機管理環境部とくしまゼロ作戦課長
- 徳島県県土整備部住宅課長

○コンペの条件

- 応募資格 徳島県の一級建築士事務所
(いずれか) 徳島県の建築士事務所が参加している共同企業体
- 設計条件 既存建築物(印刷工場)を活用して、
①災害時には支援物資等の中継地点となる防災拠点
②平時には県民生活の利便性向上や地方創生に資する用途となる提案であること



- ・実施要領書公表 : 令和2年9月14日(月)
- ・現場見学会申込締切 : 令和2年9月16日(水)
- ・現場見学会の開催 : 令和2年9月23日(水)、24日(木)
- ・質問受付締切 : 令和2年9月30日(水)
- ・質問回答公表 : 令和2年10月2日(金)
- ・応募登録書類締切 : 令和2年10月30日(金)

- ・一次審査書類締切：令和2年11月6日(金)
- ・一次審査(非公開)：令和2年11月12日(木)
- ・一次審査結果公表：令和2年11月12日(木)
- ・二次審査書類締切：令和3年1月12日(火)
- ・二次審査(公開)：令和3年1月15日(金)
- ・二次審査結果公表：令和3年1月15日(金)

おきのすインドアパーク

全ての世代が徳島に住み続けたいなる、魅力的な余白

034 1/6

01. 住民ニーズを組み合わせて、人と資金を循環させる

①県内のヒアリングより

②次期徳島市総合計画策定に関する市民アンケート調査報告書より

- ・10代市民の中で「徳島に住み続けたい」と回答した割合は36.4%
- ・最大の理由は「希望する就職先・進学先がない」
- ・「徳島市が遠点的に行う仕組み」の回答は以下となります。

- 1位「産業の振興」
- 2位「子育て環境の充実」

①のまちの生の声のミクロな視点、②のマクロな視点より、この3つの住民ニーズが徳島にあると分析します。
私たちの提案は3つのニーズを満たし、複合化させるのみならず、人や資金の流れを循環させて、おきのすインドアパークの事業継続性を確保します。

両でも行ける、子育て支援環境・スポーツ環境（関係者対話）

02. 雨天でも一日家族で過ごせるインドアパーク

03. 徳島らしい魅力を持ち、徳島に今ない場所をつくる

「なぜ今ないのか」を考え、逆説を実現する仕組み

私たちは、旧印刷センターの既存空間のポテンシャルを活かし、「徳島に今ない場所をつくる」をキーワードに、雨天でも一日家族で過ごせる、近距離からでも来たいなる、ここしかないインドアパークを提案します。

しかし、ポテンシャルと同時に、「徳島市の中心から離れている」「近隣が工業地帯」等の条件が厳しい。一般的な「逆説」では、事業の継続性が厳しい条件に対して、「逆説」の構造を考えることで、ビジネスの可能性を創出し、組み合わせにより仕組化します。

レストランの平日の安定収益を確保する仕組み

レストランは屋上の立地でも、平日の収益がリスクとしてあります。そこで、逆転の構造を考え、3層に保肉が入り込むと収益を提供する形になれば、どちらもWin-Winの関係をつくれます。

また、実際に校野郡で「きらこもど国」を運営されている社会福祉法人 靖美福祉会様が、この構想でそのインドアパークの3階に保育園開設を希望されています。

キッズニアのような、学びと楽しみの共存の仕組み

実際にヒアリングでは「屋内のレジャー施設が少ない」「学習と楽しむが重なって、子どもたちだけでなく安心していける場所があればと思う」との住民ニーズが強く聞かれました。徳島らしい魅力を持ち、徳島に今ない、けれども潜在的な住民ニーズがある場所をつくることを提案します。

「余白」を民・官・学で協力して育てていく仕組み

キッズニアは、大規模商業店舗に併設するなど、子育て世代が集まる場所で運営されています。本提案はインドアパーク、保育園、レストランに設置する場所です。①スポーツ②食育③子育てを中心とした学びと楽しみの共存を目指します。①②③は、プロでなくとも子どもに教えることが出来ます。徳島モデルとして、徳島市の市民・スポーツ庁・行政・小中高校大学が共創で運営をしていくかたちを提案し、実現に向けたプロセスを共に企画し、実現していきます。

本物の学びと楽しさを、各自自治体と連携してつくる

徳島ならではの山や海、川の自然とも触れ合う、「本物の学びと楽しみ」を提供する自然体験を、インドアパーク発着で企画します。子ども職業体験エデュテイメントパークと、スポーツ教育を掛け合わせることで、近隣園の子育て世代が、泊りがけで徳島に来たくなる魅力的な企画を、徳島県の各自自治体とも連携してつくります。

地域の健康と共にあるインドアスポーツパーク

国連が定めるSDG'sでも「健康増進」「健康教育」が重要課題です。近隣企業・団体や、保育園・幼稚園、学校への巡回指導や、放課後スポーツ教室に出向く取り組みを行うことで、学びと楽しさを両立しながら、楽しく運動に挑戦し、徳島県の競技力向上や、健康増進に繋がります。

高校生・大学生が SNS で魅力を発信

沖洲インドアパークでは、利用者であるファンのみならず、サポーター側になるサポーターなど、事業者と市民の間両方の仕組みを、高島市の市民・スポーツ庁・行政、小中高校大学が共創で創り上げ、運営していきます。

高校生や大学生も、スポーツインストラクター、SNSでの魅力発信など、様々な関わりが出来る。それが世代を超えて循環することで、円滑に市民主体に続けてきた徳島らしい魅力を持つ事業として継続性を持ちます。



●おめでとうございます。

公開プレゼンで最優秀に選ばれてから、かれこれ1年が経ちますが、その時のお気持ちは。



発表の瞬間は、今でもハッキリ覚えています。二次審査での主催者側からの質問事項の受け答えがまずなかったのではとの思いもあり、審査結果発表と同時に、驚きと高揚感でまったく異次元の世界に吸い込まれた感覚に陥り、「地に足が着かない」とはこの事かと思いました。

●受賞後に、事務所の設計環境は変化ありましたか。

発表の翌日、ニュースや新聞で取り上げていただき、反響の大きさに驚きました。早速、今回お世話になった方々にお礼やご報告をいれ、共に喜びを分かち合いました。

設計に取りかかった頃から、少しずつ実感が湧いて来ました。また、関係各社の方々の事務所訪問が、これまでの倍以上に増えたと思います。同業者の方々からも、会議などで会えば、気さくにお声をかけていただける機会も増えました。

●チーム構成をお教えてください。

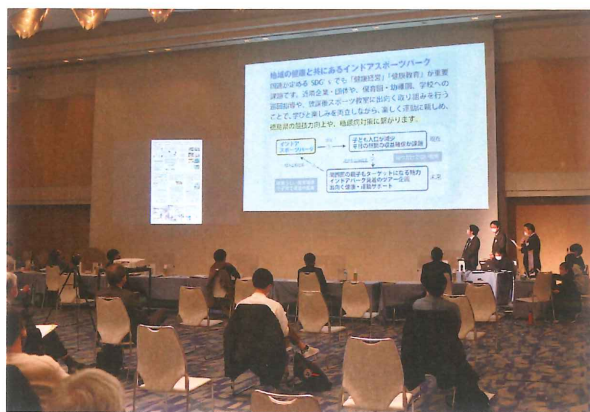
今回のコンペの統括を、大阪のジオグラフィック・デザイン・ラボが、構造については、東京の(株)構造計画研究所が担当しました。また、設備計画については、東京の島津設備設計に協力いただきました。そして私ども(株)泉設計室が地元の調整窓口、図面のチェックや積算業務を担当しました。

私と構造計画研究所の福井さんとは、「もくよん」からつながりができ、今回、ジオグラフィックラボとのマッチングをしていただきました。福井さんは、以前からジオグラフィックラボと親交があり、チームワークよくコンペに臨めたことも、結果に結びついたのではないかと考えております。



●プレゼンでは、徳島に必要なもの、希望の高いものを整理され、テーマ設定が綿密との印象を受けましたが。

コンペへの参加に際し、県民の方、色々な世代の方にご意見を伺いました。その中で、徳島では休日に子供を遊びに連れて行くとしたら、神山森林公園や板野にあるアスタムランド徳島なんかが挙げられますけど、一日中子供たちが安全に遊べる様な場所がもっとあればと言う声もお聞きしていたところです。



なので、そういった声に応えるような施設を考える中で、初期の段階から、運動、健康志向の建物案として提案しようという方針となり、打ち合わせを重ねながら、子供中心の教育、育児等を加え、集約していきました。

●コロナ禍の中、打合せ等は大変だったのでは。

コロナ禍ということで、大阪、東京、徳島が拠点の会社の共同企業体として、打ち合わせはモニター会議で行いましたが、問題なくスムーズにできました。

今回の一番の問題は、既存の建物改修であり現状把握がポイントだったと思います。

現地調査にしても、用途が印刷工場で、無窓の大部屋が半分以上あり、明かりの無い中を、懐中電灯を頼りに現場に入りました。その困難な調査を構造計画研究所の改修建物のNavVis



による計測データで、立体計測に加え調査計測の必要な部分をモニター内で計測できたおかげで、現場の調査、確認を乗り切ることができました。



●担当が、複数部局にまたがっていましたが、意見集約についてどのように調整されましたか。

今回のコンペについては、防災拠点の担当課である「とくしまゼロ作戦課」や「住宅課建築指導室」、また、子育ての担当課などと確かに色々分かれてます。今思い返してみると、県庁内では別の機会に調整いただいていたのか、私たちがとの進行で縦割りみたいなことを感じることもなく、複数部局にまたがったという印象、書類の煩雑さ等は全然感じませんでした。これは、確かに大変ありがたかったですね。

●設計の進捗状況や、今後のスケジュールはどうですか。

今回のコンペによる設計が、既存建物の改修ということもあり、工程は遅れ気味ですが、時間と予算が許す限り妥協のない建物に仕上げるため、設計者として奮戦中です。

工事は3期に分かれています。大まかに言って1期工事は1階・屋上階解体と新規躯体について、2期工事は2・3階の改修工事について、3期工事は1階内装と外構工事について、となる見込みです。1期、2期工事分は令和4年2月頃に発注予定で、3期工事は令和4年5月初旬着工、完成は5年3月予定として準備を進めています。



●コンペについて、言いにくいところもあるでしょうが、ご意見があれば。

そうですね。県市両方に関わる部分について調整が必要な場面があったのですが、もっと連携した話し合いが出来ればと、その点は感じました。また、今後のためにあえて言うと、当選したことによる、設計料や入札制度の中でのアドバンテージがあれば、もっと励みになると思います。県も今回のコンペを検証されていると思いますので、是非よりよく進化させ、これからの徳島を担う設計事務所の建築士に、今回のような機会を作っていただけたらと、切にお願いいたします。

●最後に今後の抱負などお聞かせいただければ。

今回のコンペについては、純粋に建築を通して社会貢献、建築業界で活動してきたことへの感謝の意識で参加させていただきました。前回の「もくよん」にも参加しコンペ当選の厳しさを目の当たりにして、自分の考えの甘さを痛感しました。しかし、参加することに意義があるとの不退転の決意で挑戦して、今回最優秀をいただきました。改めて弊社にかかわるすべての方に感謝しかありません。



今回の実施要領書では、「少なくとも一者は徳島県知事の登録を受けた建築士事務所が参加していること、また、このプロジェクトにより県内の建築に関わる事業者が主体的に活躍でき、県外の建築士事務所との協力を通じて、県内に新しい技術の導入や定着を図るチャンスを生み出す場として進めること、とありました。これはまさに弊社にあてはまる状況で、零細企業が大型プロジェクトに参加できる機会をいただけたことに、まず感謝いたします。

そして、次の機会があればその際にも、挑戦の炎を絶やすことなく、社会貢献に尽力していきたいとの決意を新たにしております。

●今回の挑戦が「臨港」の施設整備にとどまらず、ぜひ徳島の発展にチャレンジする仕組みとして発展継承され、関係各位の創意工夫の取り組みが育まれますよう祈念しております。

ありがとうございました。

